

田中

軍縮

12a1  
(お録 野上)

軍縮のモラルの面 (ラ・アに国際法から)

1. Instrumental 存在面と institutional 存在面とがあること、  
後者はモラルの面が中心。
2. 過去軍縮合戦の史例から導けるモラル。
3. 軍縮に必要の institutional 存在面、  
軍縮の倫理の道徳的基盤。

(1) 194年8月 大西洋ケンシヨウ (ルーズベルト、チャーチル)

「両氏は世界の一切の国民に *realistic* 合理的理由によると  
精神的理由によるとを区別せず、力の政策を放棄  
するよう存在することを信ずる」

軍事政策の行シも  
軍も *instrumental as well as institutional*  
(*spiritual* に対応する)。

「戦の端は引きつり返すは平和の端は始」

絶えずその *means of delivery* の急を覚悟  
(*instrumental*) に対応する *institutional*  
存在面が立ちはたかしてきている。

22にラ・ア、声明の発表の大きな意味がある。

c092-005-014

1292

これは極端、軍縮の問題かであるか、これは上述の2つの  
面がある。

軍縮問題へのアプローチの仕方:

- instrumental 面から,  
social engineering を対して disarmament  
engineering と対比
- institutional 面からのアプローチ  
これも大切、モラル → 口約束のとりまめ  
→ 口約束。

2つの面があること大切。

(過去の事例)

成功した例:

海軍の軍縮の条約 (1921, ワシントン)

主力艦、空母の2種類

ハイキ --- 主力艦 (米 15 (13), 英 20 (4)  
21隻 日 10 (6))

カワコは建造中のもの。

主力艦 5=5=3 の比率。

Charles Evans Hughes 口説長官<sup>15</sup> 南会(海軍)長  
たが一つで今のこのアプローチが決められた以上の  
船を決めた。

成功の原因、英米が組んで日本を押えた。

power politics の中の出来事である。

フランス、イタリアは小国扱いされて、ムカんだ。

特に英米の言ではげにかった。

補助的競争がおこった。(部分軍縮の特長)  
1930. オンドンで 軍縮会議  
(1928. ブリッペン、ケロウグ、ハット(戦争放棄条約)  
かできたので、マクドナルドがアメリカに働きかけロンドン  
会議を催した、  
日英米で計 43万トン <sup>24万ト</sup>決めた。 フランスが反対、

これが成功の唯一の例。  
第一次戦後のロンドン軍縮 (1920)  
軍縮の準備委員会が続いていた。 1927年リトビツ  
の全面軍縮案(一)と上げられたが、(この案には最重  
ロンドン軍縮会議... 惨敗した失敗。 inspectionが  
1932-34年 ジュネーブで開いた (二))  
→満洲事変、日本、ドイツの脱退 (1933)  
1931 日英伊の合意 (1936) 第二次戦への突入。

以上の例では、力関係による軍縮が行われてきた。  
基本的に競争があるとは、部分軍縮は unstable、  
また inspection がなかった。(報告せよはあった)。

フ、ア革命の見地から見て、ロンドン条約の基本となるもの

1925. 毒ガス、細菌兵器禁止条約(ジュネーブ)  
ヒジュン田 - 世界の大部分、大国の中心 <sup>日本と</sup> アメリカだけが  
ヒジュン田にない。(当時、日本は粘土の足、  
strong and weak とよばれていた)  
イギリス、ソ連等は相手が使ったら使うという条件  
をつけた。 <sup>的</sup>  
兵器禁止条件の例である。

インスパンション  
はなかった。

アメリカは  
断然か  
なりと  
断然か  
なりと

アメリカは長い。20世紀の歴史は不従順の争いである  
1947年に drop した。  
中南米の国とアメリカとは毒ガス... 条約を結んでいない。  
原因は isolationist の立場である (国内の問題である)  
global commitment は存在しない方針である。

第二次大戦では、日本は英米が電報を警告を与えた  
(使ったなら圧倒的な使い方をすると)。

毒ガスのときは負けがドイツが使った、この大戦でアメリカは勝った国として使った。

アメリカは正規合法の兵器として使った、事実上、合法化  
して使った。

〇 核兵器のみ切りは存在しない "大量殺戮兵器" として  
毒も一緒に考へるべきだ。

1949. ジェネーブ、ディプロマチック、コンファレンスの外交会議  
戦争法規 - 4ヶ条を定めたもの。

- (i) 捕虜の待遇に関するもの
- (ii) 戦時での civilian の保護に関するもの

この二つはまとめた。この合意でソ連が毒ガス、細菌  
兵器の禁止を再び持ち出した。(将来の戦争では細菌、  
化学、核その他大量殺戮兵器が使われるおそれがある。  
1925年のプロトコルの非ヒジメン国がヒジメン  
する禁止を求めた。香決された(正式には  
加入していないから)。

1952年 カナダのトロント, 国際赤十字大会(18回)  
万場の口が1925年のフットボールをヒジメにする事を  
万場一致で可決,

ジェイサイドの禁止抑圧

1948. の口際合戦  
アメリカ以外全部ヒジメ,  
日本は入っていない,

枕巻キ使用キャンセル

一番はじめ:

原子力口際合戦の1946 口連原子力委,  
ソ連が提案.

(i) 現条件禁止, — 1925 <sup>ヒジメ</sup>フットボールと合意精神,  
(ii) inspection をふくむキャンセル

以後, フットボールの例を引きながら 軍編交際の  
過程で何度か出ている.  
米・英の答は苦しい.

最世

1961 末, 口連總會

「枕巻キ使用は口連キャンセルに反する. 故に  
使用キャンセルの口際合戦のための特別合戦  
の可能性について口連總長が各口のケン  
を交して秋に報告する事」

賛 55 反対 20 キケン 26

ソ連は賛成投票, 日本はサボイ.

アメリカは反, イギリス反.

口連總會の決意に日本の新聞はいかに冷たいであらう!

12ab

湯川: 京都会議からアメリカに申し入れてよい  
のて存在は、

以上、一カマにて、アメリカは金即ヒビツンにていなり!  
これはアメリカのために書いむ、

こめくり。  
技術面も 精神面も 金ごうに重要である。

小川 光 井原の例。 prestige をかすうが respect をかすうが。

上原、条約をまもるといふこと、罰は minor であり、honour  
といふことを大切。武士道、騎士道、

豊田: Cambridge の金は disarmament engineering  
London は institutional。  
このようにあるのてすがい。  
田中論文を提出するのてを望む。  
また、この会議とていふことに comment を出すのてを望む  
みたらう。

谷川: アメリカ人の上ののてをどうお考え存のてあるうか  
という形の質問を出してみたらう。英国での会議に  
田中氏に出席してよろうのてはご存のてか?

田中: 英文にて湯川氏に出す。(世界を月号の語と今日の語  
を一緒にしたもの)

ねね:  
論文は論文とて出さ、質問は別にやつてやらう。

大槻:  
日本の方を毎年プロトコルをヒツツンにていなり  
て存在は、

1207'

坂田  
田中: 日本政府に伝えた  
福島: パグは世界的なものだから、全口の研究者が一致して  
非ヒジメに伝えたという興味を考えている。  
朝: ジェリサドの条約にも入っていない。  
小川光: パグで syedological fallout ということを知った人がいる。  
小川、田中: イギリスの細キン兵器研究部、  
エコノミストに平和利用を研究しているという記事がでた、  
/週刊誌に月報パグの記事がでた。  
小川光: ロンドン会議のスタート時に田中氏の話のこのように  
を述べたように。  
湯: ロンドン会議は、その声明を再確認しようとしている、  
から可能にはある、勿論、ストウ会議で田中氏が  
「その間の」 受け持ったように、「われわれはカンジ  
でいる」という抵抗はあろう。  
田中: ソ連の方向の態度には 共産主義のヒューマンズがでて  
いる、これが、一方スターリン主義とすると「存在だ、ゴマが  
でいるか」ということにもなる。

坂田田中: パグに不利なところがあることが向是だ!